

県議会の概要説明

オリエンテーションの中で、国中議会運営委員長から、議員定数と選挙区、会派、常任委員会、特別委員会及び議会運営委員会等の議会のしくみや、議会の議決権及び調査・検査権、県民の利益につながる意見書の提出、県民からの請願・陳情の審査等の議会の役割や仕事、並びに議員の活動等についての概要説明が行われました。



(於：第1委員会室)

議会運営委員会

本会議が公正円滑に運営できるよう、会派を代表する議員により本会議の議事日程等を話し合い、議員全員の合意形成を行うための議会運営委員会を、各学校を一つの会派とみなして、各学校を代表する高校生議員により開催されました。



(於：議会運営委員会室)

本会議

開 会
午後1時2分

○芝池議会事務局長

ただいまから奈良県高校生議会を開催いたします。

まず初めに、山下力奈良県議会議長からご挨拶を申し上げます。

議 長 挨 拶



○山下議長

皆さん、こんにちは。奈良県議会議長の山下です。本日ここに平成26年度奈良県高校生議会を開催するに当たり、県議会を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

さて、奈良県高校生議会は一昨年からは始まり、本年で3回目であります。若者の政治離れが懸念されている今日、奈良県の政治に興味を持ち、知事に質問や提言をしたいという高校生が県内にたくさんおられることを大変うれしく力強く思っています。

本日は6校30名の皆さんに議員になっていただき、次代を担う若者の視点から県政について質問や提言をしていただきます。どのような質問をしていただけるのだろうかと私自身大いに楽しみにしているところであります。

近年、地方自治体の自己決定権、自己責任の領域がどんどんと拡大されています。各自治体は

知恵を絞り、地域の特性に応じた政策を考えていく時代に入っています。私たち県議会議員は、県民の皆さんのさまざまな思いや願いを県政に反映させるべく、知事や行政委員長または関係部局長等々と県行政のあり方や方向性について議論し、重要な施策や予算の審議・決定をしています。また、日々の調査活動に基づき、奈良県の特性に応じた独自の条例の制定や新たな政策提言も行っているところであります。

今後とも、県民の声に真摯に耳を傾け、また、他府県の状況等も学びながら、県民の皆さんが住みやすい奈良県になるよう、引き続き努力をしたいと思います。

最後になりましたけれども、この高校生議会議を開催するに当たり、協力をいただきました各学校の校長先生をはじめ担当の先生方に深く敬意を表し、御礼申し上げ、開会の挨拶といたします。

○芝池議会議務局長

続きまして、荒井正吾奈良県知事からご挨拶をいただきます。

知 事 挨 拶

○荒井知事

皆さん、こんにちは。高校生議会議の開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日、皆様にお集まりいただいたこの本会議場では、通常、年4回県議会議が開催されています。皆様よくご存じのように、議会議は民主主義実行の中心でございます。民主主義では、20歳以上の全ての人が参加できる選挙で選ばれた議員の皆様が、多数決によって県の意思を決めることになります。普通選挙と多数決が議会議制民主主義の根幹ということでございます。議会議の決定は県の意思の決定ということになるわけでありまして、このような議会議の決定を議決と呼んでおりまして、あらゆる議決はこの本会議場で決定されています。また、この本会議場でしか決定されていないものでございます。したがって、ここはまさに本県の議会議制民主主義の現場そのものであります。

皆さんは間もなく選挙に参加する権利を持たれ

ることになりますが、本日は皆様のための臨時の議会議でございます。4回の定例本会議と1回の臨時議会議がある奈良県ということになっております。



ことしこの本会議場において高校生の皆さんからさまざまな分野に関し多岐にわたる質問や提言が発表されるとお聞きし、大変楽しみにしております。次世代を担う皆様に民主主義の仕組みと考え方になじんでいただき、また、その上に住みよく魅力ある奈良県づくりについて意見交換をし、奈良の未来を一緒に考えさせていただくことは非常に意義深いことだと思っております。若い皆様の感性で日ごろから考えておられる県政に対する質問や提言を行っていただきたいと思ひ、期待をしております。

終わりにりましたが、本日の高校生議会議開催に際し、お忙しい中いろいろお世話いただきました各学校の先生方、県議会議員の皆様方、その他関係の方々に御礼を申し上げまして、私の開会のご挨拶とさせていただきます。

以上でございます。

○芝池議会議務局長

次に、本日参加の高校生議員の皆様を紹介いたします。名前を呼ばれましたら、ご起立願います。

(個々の紹介は高校生議員名簿をご参照ください)

○芝池議会議務局長

続きまして、理事者の紹介をいたします。

荒井正吾奈良県知事です。

なお、本日もご出席いただきました理事者の皆様のご紹介につきましては、誠に恐縮でございます

が、お手元の座席表をもってかえさせていただきます。



続きまして、奈良県議会議員の紹介をいたします。

山下力議長です。井岡正徳副議長です。国中憲治議会運営委員長です。



また、本日出席いただきました県議会議員の皆様のご紹介につきましては、お手元の出席議員名簿をもってかえさせていただきます。

○芝池議会事務局長

次に、奈良県高校生議会の議長を五條高等学校、中村芽萌議員、奈良育英高等学校、田中佑樹議員に務めていただきます。

それでは、中村議長、議会の進行、よろしくお願いいたします。

開 議

○中村高校生議長

ただいまから奈良県高校生議会を開会します。

それでは、県政に対する質問を行います。



(五條高等学校 中村芽萌議員)

順位に従い、添上高等学校、1番、稲本華歩議員、2番、森末壮一朗議員、3番、新谷啓議員に発言を許します。

知事等との意見交換

高校生からの質問

○稲本議員

奈良県立添上高等学校、1番、稲本華歩です。児童期における豊かな遊びの体験についてお尋ねします。



(添上高等学校 稲本華歩議員)

まず、私の経験からお話したいのですが、私は、小学校のころ、よく休み時間にドッジボールなどのボール遊びをしました。ボール遊びはとても楽しかったので、放課後にも友達と校外でしようと思いましたが、ところが、マンションの広場や公園にはボール遊び禁止というルールができていましたし、そもそも遊べる場所自体が少なかったもので、心行くま

で遊ぶことができませんでした。とても残念な思い出です。

考えてみると、昔は子どもが外で運動をして遊ぶことが多かったのに、今では子どもは家でゲームをすることが多くなっています。それは、遊びの種類がふえたということもあると思いますが、ボール遊び禁止というような細かなルールや外で遊ぶ場所の少なさも原因だと思います。ちなみに、平成7年度環境庁調べ、世代ごとに実施された「児童期に遊んだ遊び」のアンケートデータによると、「木の枝で刀やパチンコなどをつくる」という回答は40代から60代で多く、約80%の人が経験しています。一方、小学5年生から中学2年生の経験者は少なく、約20%にとどまります。20代も同様です。そのかわり、「テレビ(パソコン)ゲームで遊ぶ」という回答は、逆に小学5年生から中学2年生の70～90%を占めています。約20年前の調査でさえこうなのですから、その後の社会状況の変遷を考えても、現在の子どもの遊びがより一層屋内に偏っていることは容易に想像できると思います。

そこで、知事に質問いたします。

スポーツの振興には子どものころからの豊かな遊びの体験が不可欠だと思いますが、先ほど述べたような遊び場所をめぐる状況は、「だれもが、いつでも、どこでも、運動・スポーツに親しむ」という政策目標の妨げになっていると思います。もっと子どもたちが遊べる場所をふやしたり、遊びやすいルールを広めたりすることはできないでしょうか。お答えください。よろしく願います。

○森末議員

2番、森末壮一郎です。私は、県民の基礎体力の低下について質問したいと思います。

奈良県のスポーツ振興に関連して指摘されることの一つに、体力テストにおける基礎体力の低さという問題があります。平成25年12月の奈良県の報道資料によると、小学生・中学生とも体力テストの平均値が全国平均をやや下回っています。また、文部科学省が実施している体力・運動能力調査によれば、全国の小中高生の運動能力も、昭和60年ごろのピーク時に比べ、回復傾向にはあるものの、まだまだ低い状態にあるようです。ここ数年、本校

では、地元の小中学校と協力して体力向上に努めていますが、それだけでは十分とは言えません。



(添上高等学校 森末壮一郎議員)

主な原因としては、私たちの親の世代では、あまり電気製品などがなかったこともあり、子どもたちが元気に外を走り回って遊んでいたのに対し、私たちの世代になると、目覚ましい最先端技術の発達によって、テレビゲームやパソコン、スマートフォンなどの電気製品が一気に普及したことによって、子どもたちがそれらに夢中になり、外で遊ぶ時間が少なくなっていることが挙げられます。

そこで、教育長にお伺いします。

奈良県下の子どもたちの基礎体力の低さをどのような方法によって改善しようとお考えなのでしょうか。お聞かせください。

○新谷議員

3番、新谷啓です。私は、県民のスポーツに対する関心について質問します。



(添上高等学校 新谷啓議員)

現在、奈良県には有名なスポーツチームがあるわけでもなく、県民誰もが参加できる大きなスポー

ツイイベントも奈良マラソンぐらいしかありません。県内でスポーツの観戦をしたり、スポーツイベントに参加した経験のある人はそう多くはないと思います。奈良県民とスポーツが疎遠になっていると思います。

実際、奈良マラソン実行委員会の資料によると、奈良マラソン2012の参加者1万7,381人中、奈良県民の参加者は7,434人しかおらず、半数以上が県外からの参加者となっています。そのほかにも平成21年度全国消費実態調査の資料に1世帯当たりの1カ月スポーツ観戦支出指標というものがありますが、それによると奈良県民のスポーツ観戦支出は全国平均の4分の1であり、県民のスポーツに対する関心の低さが読み取れます。

何事も関心と意欲がないと発展することはありません。それはスポーツの発展も同じで、奈良県のスポーツが発展するには県民の関心と意欲が必要です。

そこで、知事にお伺いします。

県民のスポーツに対する関心を高めるために、今後、どのようなイベント等を開催しようとしているのか、具体的なプランがありましたらお聞かせください。



○荒井知事

まず、1番、県立添上高等学校、稲本議員のご質問にお答え申し上げます。

子ども時代のボール遊びの強い要求がおありになったご経験を踏まえまして、豊かな遊び場所の創設が必要だという観点からのご質問でございます。

県におきましては、年齢・経験・体力を問わず気

軽にスポーツを楽しめる総合型地域スポーツクラブの積極的な活動を進めようとしております。だれもが、いつでも、どこでも、運動・スポーツに親しめる環境づくりが目標でございます。子どもさんだけでなく、多くの方、シニアの方も含めて参加していただく仕組みでございます。

現在、県下には57のクラブがございますが、そのうち14のクラブで幼児や小学生を対象にした遊びの要素を取り入れた運動教室を実施しております。

幼児期に運動神経を刺激することは、その後の運動習慣づくりに重要な影響を及ぼすものと聞いております。この12月にはバルシューレという幼児向けのスポーツ教室を新たに実施したいと思っておりますが、これはボール遊びから運動の基本を学んでもらうものでございまして、奈良教育大学の協力を得て開催する予定でございます。今後、総合型地域スポーツクラブの活動にこのような要素を入れまして、普及・拡大させていきたいと考えております。

また、遊ぶ環境整備でございますけれども、小学校の運動場の芝生化は大変意味がございます。お子さんがけがをしないうえ、また、運動する機会が格段にふえてまいります。また、県立学校体育施設を開放することで運動の機会をふやすことに結びつけたいと思います。また、この7月にはまほろば健康パークにプールとフィットネススタジオなども兼ね備えたスイムピア奈良と呼ばれる施設がオープンいたしました。パーク内にはジョギングコースや子ども広場などもございます。多くの県民の方に利用していただけるものと考えております。

2番目の森末議員のご質問は、教育長がお答え申し上げます。

3番、新谷議員のご質問でございますが、奈良にプロスポーツチームが少ない、またスポーツイベントが少ないことに対しまして、県民のスポーツへの関心を高める必要があるという観点からのご質問でございます。

本県におきましては、県民が気楽にスポーツに参加できる機会の拡充を目指しており、さまざまなスポーツイベントを実施しているところでございます。特にご家族やご友人、会社の仲間などがチー

ムをつくって気楽に参加できるタイプのイベントづくりの開催にも努めております。昨年より実施しておりますが、リレーマラソン大会や400メートルリレーフェスティバルのようなものは、幅広い世代が合同して参加していただくスポーツイベントでございます。

また、議員がお触れになりました奈良マラソンでございますが、本年は第5回記念大会として開催いたしますが、県民枠2,000人を別枠で設置いたしました。

一方、見ることによりスポーツへの関心を高めるということも議員のご指摘のとおりでございます。バスケットボールやサッカー、野球などのプロスポーツの観戦機会づくりにも取り組もうとしております。それとともに、スポーツ教室を開催して、多くの子どもたちにスポーツに触れる機会を設けたいと思っております。

また、奈良の豊かな自然や起伏のある地勢を生かした新しいタイプのスポーツイベントも必要かと思っております。自転車を利用したサイクルスポーツやカヌーといった種目でございます。

今後も県内各地で多くの方がスポーツに触れることができるような取り組みを展開して、県民のスポーツに対する関心を高めていきたいと考えているところでございます。

ご質問ありがとうございました。

○吉田教育長

2番、県立添上高等学校、森末議員の、子どもたちの基礎体力の格差をどのような方法によって改善しようと考えているのかとのご質問にお答えさせていただきます。

平成20年度の全国調査で本県の児童生徒の体力が低位にあることが判明し、県教育委員会では、体力向上に向けた取り組みを行っております。先ほど知事からもございましたように、小学校では平成21年度から運動場の芝生化に取り組ましました。芝生化校15校の体力について分析をしたところ、けがを心配せず積極的に外遊びを楽しむ児童が増加し、特に走力、走る力について著しい向上が認められています。また、平成24年度から、夏休みにスポーツに親しむ期間を設けまして、森末議

員の添上高等学校にもご協力をいただきながら、小学生が水泳や体操などさまざまな運動の特性に触れ、その楽しさが体感できるイベントなどを開催いたしております。



一方、中学校においては、今年度から4つの市町村をモデルにし、総合型地域スポーツクラブとの連携事業の一つとして、運動部活動の活性化に取り組んでおります。

今後、県教育委員会では外遊びの環境を整える小学校の運動場芝生化を促進するとともに、総合型地域スポーツクラブと学校との連携を拡充し、児童生徒の体力向上に努めてまいります。

ご質問ありがとうございました。

○中村高校生議長

再質問はありますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

ないようですので、次の質問を行います。次に、智辯学園奈良カレッジ、6番、萩野あ一す議員、7番、大江奈々央議員に発言を許します。

○萩野議員

智辯学園奈良カレッジ、6番、萩野あ一すです。観光の広報活動についてお尋ねします。

奈良県の産業を発展させる方法として観光業を盛んにすることは重要であると考えます。観光業を盛んにすることで宿泊業や飲食サービス業はもちろんのこと、建設業や運輸業などさまざまな産業により影響を与えることとなります。

奈良県観光産業課の奈良県宿泊統計調査という資料によると、8月は夏休みや燈花会などの魅力あるイベントがあるため、多くの観光客が奈良を訪

れています。それに比べ、1月、2月はオフシーズンとなり、観光客は8月の3分の1まで落ち込んでいます。しかし、1月、2月には初詣で、節分、修二会などの行事があります。特に1月には多くの人々が初詣でに出かけるなど、観光客誘致のチャンスが全くないわけではありません。それでも観光客が少ない原因の一つとして、初詣には奈良県の寺社ではなく近隣の府県にある寺社を選択しているのではないかと考えられます。奈良にも春日大社や橿原神宮をはじめ魅力ある寺社がたくさんあるのに、とても残念でなりません。隣の三重県では近鉄のCMに壇れいさんが起用され、多くの観光客が伊勢神宮を訪れているように思われます。



(智辯学園奈良カレッジ 萩野あ一す議員)

そこで、知事にお伺いいたします。

今後、県の内外に奈良の魅力をアピールするため、観光大使を起用したり、企業と協力したCMを作成したりするなど、どのような効果的な広報活動を計画されているのでしょうか。お聞かせください。

○大江議員

7番、大江奈々央です。伝統工芸の後継者育成についてお尋ねします。

近年、奈良県では、生活様式の変化や大量生産による製品の普及により、墨、和紙といった伝統工芸品やさまざまな伝統工芸に原材料を供給する林業などの衰退といった事態が起こっています。

伝統工芸産業の抱える課題としては、これらの工芸品は製作に手間も時間もかかり、原材料にも制約があるため、ほかの作業に比べると収入が少なく、後継者が不足していることが挙げられます。また、就業者の高齢化も進行しており、衰退は今

後も避けられない状態になっています。これらの工芸品の中には、奈良県内の寺社の祭礼と密接な関係を持つものも多く、伝統工芸の衰退は伝統文化の衰退へと発展する可能性もあります。



(智辯学園奈良カレッジ 大江奈々央議員)

このような伝統工芸や伝統文化は、奈良県の魅力の一つであり、奈良県民にとってはアイデンティティと言えるものでもあります。私も、以前、紙すきを体験した際に、古来から続く伝統文化の美を感じることができました。そのため、奈良県民にとって伝統工芸や伝統文化を守り、教育などを通して子孫に伝承していくことは、とても重要なことであると考えようになりました。

そこで、知事にお伺いします。

今後、後継者不足を解消するためには、教育機関などと連携して早い時期から伝統工芸に触れ、興味を持ってもらう機会を今以上にふやすことが必要であると考えますが、県では広く後継者を募り育成していくためにどのような取り組みを計画されているのでしょうか。お聞かせください。

○荒井知事

6番、智辯学園奈良カレッジ、萩野議員のご質問がございました。奈良県の産業発展のためには観光が大事だ、とりわけ宿泊施設の充実が必要だとお述べになりました。私としては全く同感でございます。

また、観光にはオフシーズンとオンシーズンがあって、とりわけオフの対策として、広報の充実が必要だとお述べになりました。その点も同感でございます。オフの対策は、広報とイベントの充実が必要だと考えております。

その広報の充実の面でございますが、本県におきましては、一昨年より冬の観光閑散期における誘客促進対策として、誘客効果の高い県内有名社寺での特別公開など、地域の魅力を生かした観光素材を旅行事業者へ提供し、宿泊旅行商品の造成を促進する「奈良うまし冬めぐり」を始めました。着地型旅行商品の造成と言われる分野でございます。

また、長期的な観点からは、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年を目標にいたしまして、今年度から春日大社の20年に一度の式年造替や興福寺中金堂落慶などの催事を核とした奈良県観光キャンペーンを展開し始めております。

具体的な活動でございますが、ことし5月には東京六本木ヒルズにおきまして、奈良県ゆかりのタレントに出演願いまして新聞・テレビや雑誌等のメディアに向けプロモーションを実施いたしましたところ、新聞やウェブ等で200を超える情報発信をしていただく結果になりました。

議員がお述べになりましたように、多種多様な手法により広報活動を展開して、本物の奥深い魅力が奈良にはありますので、それを積極的に発信することは大変重要だと思っております。このため、新聞や雑誌等のメディアに出向きまして奈良の特集記事などの掲載を直接働きかける戦略がより効果的だと考えております。最近では奈良県大芸術祭の展開につきまして関西ウォーカーというのに大きな特集を組んでいただいております。

今後とも、こうした取り組みを通じまして、奈良観光の誘客促進につながるよう努めてまいりたいと考えております。

7番の大江議員のご質問がございました。伝統工芸の継承の難しさということをお述べになる一方、伝統工芸と奈良県のアイデンティティーという大変奥深い点にもお触れになりました。そのとおりだと思います。

奈良の伝統工芸は、歴史と風土が育んだ貴重な財産でございます。今後も大切に継承して振興を図っていくことは県政の重要な課題だと考えております。

本県では、伝統工芸品の普及と製造者の意欲を高めることを目的にいたしまして、国指定の高山

茶せんと奈良筆のほかに、赤膚焼、奈良うちわなど17品目を奈良県伝統的工芸品に指定しているところでございます。これら工芸品は、東京での伝統的工芸品展へ出展したり、工芸品の内容や製作体験可能な工房などの情報をパンフレットやホームページで紹介するなど、その振興に努めているところでございます。



しかしながら、議員もお述べになったことございますが、その継承には難しい点もございます。生活様式の変化や安価な輸入品の増大などの影響、また製造者の高齢化、後継者不足から技術・技法継承が困難になっている指定品目があることも認識しているところでございます。

そのため、本県では教育委員会と連携して、若い時期から伝統工芸に触れ、そのすばらしさを学び、伝統工芸に関心を持つ人の裾野を広げたいと思っております。昨年度から小学校へ出向いて、いろいろな伝統工芸品の製作を体験していただく取り組みを始めましたところ、昨年度は15校671名の児童を対象に製作体験を実施し、好評を得たところでございます。

伝統工芸、伝統技術の継承のためにももう少し大きなことも考え始めているわけでございますが、きょうは触れるのを控えさせていただきたいと思っております。また、考えが煮詰まりまして、本議会でのご理解が得られましたら、予算要求などにつながればと思っております。ご質問ありがとうございました。

○中村高校生議長

再質問はありますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

ないようですので、次の質問を行います。次に、奈良育英高等学校、11番、柏木遼介議員、12番、田中佑樹議員、13番、國澤芹夏議員に発言を許します。

○柏木議員

奈良育英高等学校、11番、柏木遼介。県内で提供できる消費の楽しみについて質問します。



(奈良育英高等学校 柏木遼介議員)

まず、奈良県には、東大寺をはじめとする歴史ある神社・仏閣がたくさんあり、古都奈良の文化財として、奈良市内の8つの資産が世界遺産にも登録されています。また、奈良公園やならまちなどの歴史を感じることができるエリアは、毎日のように海外から観光客が訪れます。さらに、2020年に東京オリンピックが開催されることが決まったことにより、今後、日本に興味・関心を持ち、海外から観光に来る人がふえ、奈良県にも多くの観光客を誘致できるのではないかと思います。

しかし、奈良市内の観光名所周辺は細い路地が多く、民家が密集しているところもあり、観光名所を移動している途中で少し一休みできるというスペースが少なく、食べ物を購入してもベンチに座って味わうということができにくく、ゆっくり楽しむという面では不十分ではないかと感じます。

奈良県に来られた観光客の消費を拡大するためには、もっと消費を楽しむことのできる環境を整備したり、奈良県ならではの商品を開発したりする必要があります。しかし、県内の消費拡大は、観光客向けだけではなく実際に暮らしている私たち奈良県民も買い物などを楽しめる環境を整備し、奈良県が誇る伝統工芸の技術を生かして日常

でも使える商品を開発するなど、私たち県民も地元の魅力に気づき、地元産の商品について魅力や愛着を感じることができるようになれば、県内の消費をより拡大させることができると考えます。

そこで、知事にお伺いいたします。

東京オリンピックまでに県民と観光客が一体となって消費を楽しむことができる環境を整備したり、新しい商品を開発したりできれば、県内の消費を拡大することができると思います。知事のお考えをお教えてください。

○田中議員

12番、田中佑樹です。奈良らしい歴史文化を核とした地域活性化について質問させていただきます。



(奈良育英高等学校 田中佑樹議員)

最近、奈良学という新しい活動が活発になっています。奈良学とは、奈良の歴史文化について実際に体験しながら学ぶというものです。現在、この活動を行っている教育機関が高等学校や大学など幾つかあり、私たちの奈良育英高等学校も今年度から取り組んでいます。

この奈良学を奈良県全体で総力を挙げ、観光客の方々を対象に実施するのはどうでしょうか。例えばスタンプラリー形式で幾つかの観光地をめぐるといったプランです。丸一日の行程で、近鉄奈良駅の行基菩薩像前をスタートし、東大寺や興福寺の拝観や春日大社への参拝といった観光だけでなく、奈良の特産を用いた料理を提供してくれるお店でのランチ、ならまちのアンテナショップや伝統工芸品を置く老舗をのぞいて、お茶を楽しみ、元興寺をゴールとして奈良をめぐる。

近鉄奈良駅周辺以外にも由緒ある神社・仏閣とそれらの門前町がたくさんあり、これらを直接見たり触れたりすることで、観光客の方々にも楽しみながら奈良について学んでもらえると思います。また、これは奈良県の観光産業のさらなる活性化につながることから、結果的に地域の活性化につながると思います。

そこで、知事にお伺いします。

奈良県にはまだ一般には知られていない観光資源がたくさん眠っているはずで、私は、それらをもっと発掘され、観光に生かされるべきだと思います。そのために奈良県における新たな観光資源の発掘活動についてどのように考えておられるのでしょうか。教えてください。

○國澤議員

13番、國澤芹夏です。生活者や来県者の視点に立ったまちづくりについて質問します。



(奈良育英高等学校 國澤芹夏議員)

私たちが暮らす奈良県には、東大寺、興福寺、春日大社、少し離れて唐招提寺、薬師寺、法隆寺などの歴史的に有名な寺院があり、多くの観光客が訪れます。雨の日に気づいたことですが、最寄り駅から目的の観光地までの移動に大慌てされている方を見かけ、移動の不便さがあるのではないかと思います。また、点字ブロックが道路の補修で一部欠けていたり、車いすを利用する人が歩道の段差などで動きづらそうにされていたりするのを見かけたこともあります。

私たち奈良育英高等学校は、最寄り駅から学校までの通学路の清掃活動を行っていますが、歩道に大きなごみが落ちていることもあるので、歩道を

利用する人にとって不愉快であったり、不便であったりすることがきっとあるだろうと思っています。特に障害を持っている人たちにとって住みにくいまちになっているのではないのでしょうか。

そこで、知事にお伺いします。

今後、どのような立場の人であっても住みやすいまちをつくるために考えておられることがあれば教えてください。

○荒井知事

11番、奈良育英高等学校、柏木議員のご質問がございました。観光客に奈良らしい消費をしていただきたい、県民の皆様には買い物を楽しむ環境をつくっていただきたい、両方必要ではないか、そのことにより県内消費を拡大する必要があるのではないかとご質問でございました。

本県では県民の消費意欲が高いわけですが、県外で消費されることも多く、県内での消費が振るわない実情にございます。その結果、県内での経済循環が滞る状況が続いており、議員のご指摘のように、消費喚起に向けたさまざまな取り組みが必要だと考えております。

とりわけ2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、訪日外国人はますます増加することが予想されておりますが、現在も、奈良のみならず全国的な傾向でございますが、多くの外国人が訪れておられます。おもてなしの心でお迎えできる快適な環境づくりが必要でございます。

この週末には、猿沢荘の周辺に外国人交流拠点の整備のためのキックオフイベントを開催することにしております。また、外国人の方が、奈良は回りやすい、動きやすいということになるように案内表示の整備やお食事、買い物を楽しんでいただけるマップ等の制作は必要だと思います。奈良は、そのような点では多少おくれをとってきていたように思います。

また、奈良は、お土産物もありきたりだという評判がございまして。外国人の方だけでなく、日本の方が奈良のお土産というのは独自のものがあるな、楽しめるものがあるなということは消費に結びつく大きなポイントでございます。

また、県内の消費をふやすためには、大規模店

舗のほか専門店でございますとか、まちの中心施設、商店街の中心施設が大変弱くなってきておりますので、そのような奈良に欠けております施設の充実も必要かと思えます。奈良はコンビニが大変少ないものでございます。また、レストラン、食堂の人口当たりの数が全国一少ない県でございます。どうして少ないのか、多少不思議でありますけれども、食事も大きな消費の要素でございます。そのように、消費の拠点として欠けているところを整備する努力を続けております。

また、奈良は、神社・仏閣はあるが、そのほかに楽しむところがないと言われる面がありますので、県営プール跡地活用プロジェクトというものに取り組んでおります。そこは良質なホテルとともににぎわいと交流の拠点をづくりまして、そこが人の集まる場所、または、そこに来た人がまちの中にあふれて周遊観光していただく場所というような構想で整備を進めようとしております。

いろんな点で魅力の欠けたところを補うことによりまして総合的な魅力が高まり、ひいては県内消費が拡大できるように努力を重ねているところでございます。



次に、12番、田中佑樹議員のご質問がございました。奈良らしい歴史文化を核とした地域活性化が必要ではないかということにつきまして、観光商品についてのいろいろなアイデアのご提起もいただきました。

奈良オリジナルな素材をもって観光で勝負をするということは基本的なことでございます。大事な基本線でございます。奈良は連綿と続く歴史文化が集積し、その歴史文化が大変国際性を持ったものであるというのが、ほかにかけがえのない比類のな

い売りの要素であると思えます。

また、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年は、たまたまでございますが、日本書紀が完成し、また、著名な政治家でありました藤原不比等が亡くなられてちょうど1300年に当たる記念の年でもございます。本物の古代を持っております奈良を素材に奈良を売り出す試みをしております。記紀・万葉プロジェクトという名前でお呼んでおるものでございます。そのような文化の資源は社寺の行事・催事にも体现されております。

議員がお述べの奈良の持ち味を生かした素材をもとに新しい食事や土産物、また楽しみ方をすべきだと思いますが、文化のイベントというのも大きな軸になろうかと思えます。この秋には大古事記展や大芸術祭などの新しいイベントを開催する取り組みを始めております。

奈良はアウトドアの観光が基本でございますが、冬・夏は大変ハンディがございますので、全季節型、全天候型、また若い女性、子どもさんも楽しむことができる全世代型の観光地に育っていくべきだと考えているところでございます。

次に、13番、國澤議員のご質問がございました。生活者と来県者・ビジターの両方の観点に立った住みやすいまちをつくるべきという観点からのご質問でございます。

住んでよし訪れてよしの奈良県にしたいと思えます。その中で、あらゆる人が訪れてよし住んでよしの奈良県になるためには、高齢者や障害者をはじめとするあらゆる方々が安心して移動できる空間の整備が必要だと思います。ツーリズム・フォー・オール、トランスポーターション・フォー・オールという概念が外国では古くからありますが、それを実践する整備が奈良は多少おこなっていることは認識しております。早急な整備を進めたいと思えます。バリアフリーの基本構想を市町村の努力とともに相まって、奈良を恥ずかしくない地域にしていきたいと思えます。

また、多言語を使う方が来られますし、イスラムなど食事の習慣の違う方もおられますので、いろんな文化圏の方が来やすい奈良県ということが必要かと思えます。外国の方が訪れられる奈良公園や平城宮跡などの地でユニバーサルな観光案内のサイ

ンあるいはデザインの統一を図りたいと思っております。

奈良県では若草山に障害者・高齢者が登っていただく支援施設をつくることについて、この議会でも反対の意見がございました。もう少し早くご質問があれば、私の応援になったご質問かと思った次第でございますが、あらゆるハンディ、障害がある方も奈良は動きやすい、いいところに行きやすい地域であることを目指して、引き続き頑張っていきたいと思っております。

ご質問ありがとうございました。

○中村高校生議長

次の質問を行います。

次に、関西中央高等学校、16番、大田佳奈議員、17番、下田奈実議員、18番、森下棕介議員に発言を許します。

○大田議員

関西中央高等学校、16番、大田佳奈です。民間の活動との連携についてお尋ねします。



(関西中央高等学校 大田佳奈議員)

6月11日の毎日新聞奈良県版に「ならまち暮らし：京終町おこし」という記事がありました。町屋ゲストハウスならまちの安西俊樹さんとその仲間たちが京終町にある興味深い史跡や見どころを紹介し、まちおこしをしようという活動だそうです。私たちは、このような民間の活動が奈良県の豊かな観光資源の活性化につながる重要なポイントだと感じました。

この記事の終わりには、「行政の支援を一切受けずに民間から湧き上がってきたまちおこし」と書

かれていました。私はこの部分が気になりました。NPO法人などには行政の支援が行われる場合があると思われませんが、このような草の根的な活動にも支援が必要ではないでしょうか。民間の活動だけでなく、そこに行政の支援があることでさらに大きな成果が生まれると考えます。

民間の活動、行政の支援、これらは地域の活性化のために必要な大切な車の両輪だと考えます。この両輪がうまくかみ合うことが奈良県の観光の振興にもつながると思います。

そこで、質問です。

この京終町おこしのような民間から起こる草の根活動はほかにもあると思うのですが、このような活動に対して県としてどのような支援を考えておられるのか、お聞かせください。

○下田議員

17番、下田奈実です。経済の活性化、暮らしの向上を図るための交通環境についてお尋ねします。



(関西中央高等学校 下田奈実議員)

経済の活性化のためには人の流れをつくる必要があります。そのためには交通の整備が必要だと思います。現在、高速道路としては、大阪・奈良を結ぶものとして第二阪奈有料道路、南阪奈道路、西名阪自動車道が、京都・奈良を結ぶものとして京奈和自動車道、三重・名古屋方面へは名阪国道や東名阪自動車道があります。それぞれの道路の工事が進み、日増しに便利になっていると思います。また、県内の道路を見てみますと、国道24号をはじめとして西に大和中央道、東に国道169号の南北主要道路がありますし、東西主要道路としては、

北に二条通りや三条通り、中部には中和幹線があり、開発が進んでいます。

一方、鉄道はといいますと、県内をはじめ大阪・三重・京都を結ぶ近鉄電車やJRがあります。近鉄は乗客数も多く、県民の足として活躍していますが、JRの沿線には多くの遺跡や観光地があるのにもかかわらず、乗客数が伸び悩んでいるのが現状です。

このような中で、今後、環境にもやさしく、しかも安定、大量に輸送できる交通手段として鉄道の活用はもっと見直されてもよいと考えます。将来設置されるであろうリニア中央新幹線の駅を基点として県内のJR等の輸送力を充実させることが県内観光客の増大にもつながると考えます。

そこで、質問です。

奈良県としてこれからのJR、近鉄の鉄道網の整備についての計画はどのようなものをお考えですか。お聞かせください。

○森下議員

18番、森下 椋介。鉄道駅を中心とした商業集積についてお尋ねします。



(関西中央高等学校 森下 椋介議員)

奈良県内の消費拡大について、観光資源の活用は以前より取り組まれているものです。多くの奈良県内の歴史的観光ポイントは、駅を基点として、さらにバス輸送と連携する必要があると思われます。そこで、駅前の商業集積について考えました。

商業集積については、奈良県民を中心とした近隣の住民の需要にも対応できるものがよいのではないかと考えました。現在、商業施設として大きな駐車場を持つ大型ショッピングセンターが県内に

幾つかありますが、自家用車の利用者を前提としているものが中心となっています。しかし、休日になると、周辺の道路の渋滞は激しくなっており、決して快適に買い物ができる交通環境とは言えないと思います。また、今後、高齢化が進むにつれ、車を運転できる人も減り、公共交通機関を利用する人々が増加すると考えます。

そこで、私は、鉄道など公共交通機関の駅前開発が必要だと思いました。実際に、駅構内を利用したショッピングセンターや、それと連動した駅前ショッピング街などで成功している例も多いと聞いています。海外へもエキナカとしてその形を輸出していると聞きました。奈良県らしい独自のアンテナショップ、しゃれたカフェやブティックなどのある低階層ビルショッピング街を駅の中でなく駅前メインストリートにつくることによって、鉄道駅をターミナルとして消費活動を活性化することもできるのではないかと思います。これは、地域住民にとっても観光客にとっても魅力のあるものとなり、県内消費の拡大につながると思います。

そこで、知事にお伺いします。

今後、鉄道の駅を中心とした魅力のある消費施設などを整備していく計画について、どのようにお考えか、お聞かせください。



○荒井知事

16番、関西中央高等学校、大田議員のご質問にお答え申し上げます。民間の活動との連携について、とりわけまちおこしの分野における連携についてのご質問がございました。

まちおこしは大変重要な課題でございますが、県や市町村だけでできるわけでもございませんし、

また、民間だけでできるものでもございません。公的な機関と民間の機関との連携あるいは協働と呼ばれる作業が必要でございます。

県内では、このようなまちおこしの活動をしていただいている団体が多くございます。NPOという名の組織を持っておられる方もございますが、自主的に活動されている方が多いわけでございますので、自主性、自立性を尊重しながらご支援を申し上げる必要があるわけでございます。ご支援申し上げる分野は、情報の発信と人材の助けと資金の助けと3つの分野があるように思います。

情報の発信という分野におきましては、県がやることは比較的多くございます。例えば団体が行う催しのPRやスタッフ・ボランティアの募集が必要でございますが、その募集の情報を自由に掲載できるように奈良ボランティアネットというホームページを開設しております。ボランティアをしたい人がその情報を見て活動に参加する、また、ボランティアを募集する、双方向での情報のやり取りができるものでございます。平成25年、昨年度には約37万5,000件のアクセスがあったものでございます。また、いろいろな催しにつきましては、まとめて発信するパンフレット、チラシをつくるということも、9月から始まります大芸術祭において実行しようとしているものでございます。

人材の支援につきましては、例えば県職員をまちづくりコンシェルジュという役目で派遣いたしまして、ご相談を受けたり助言や協力を行う取り組みを平成19年度から実施しております。これまで30の地域で活動しております。また、早稲田大学と奈良県は連携協定を持ってありますが、早稲田大学の先生に奈良県のいろんな地域に生徒さんを連れてきていただき、まちおこしのワークショップを多くしていただいております。これも地域の人たちの活動を支援する大きな支えになっております。また、県が主体的に絡むイベントといたしまして、「奈良・町屋の芸術祭 はならあと」というものを開催しております。ことしも去年よりも充実した町屋を中心としたイベント、観光活動を行う予定でございます。

このような活動には資金が要ります。県の助成も行っておりますが、個人や企業の寄附も活用されるのが普通でございます。民間の団体の協力も仰

ぎながら、県や市町村もご支援を申し上げる分野であろうと認識しております。

次に、17番、下田議員のご質問がございました。暮らしの向上を図るために交通環境の整備が必要ではないかというご質問でございます。とりわけ、本県におきましては、JR、近鉄の鉄道網の整備・活用が大事ではないかというご質問がございました。

奈良県の鉄道網は、その成り立ちからして、本来、大都市の人たちが神社・仏閣に参る参宮線というものから成り立っております。大阪軌道と言われました大阪から奈良に来る鉄道線、また、橿原神宮に参ります橿原線、また、伊勢神宮の方に参ります線などは参宮線の性格でございます。また、国鉄が実施いたしました関西本線などは、国土の幹線がこの奈良県を通過しております性格のものでございます。

その後、時代が変わりまして、30年少し前から、大阪・京都などに行くのに便利なものでございますので、大阪への通勤、買い物に使われ、逆の方向での輸送が多くなりまして、大阪通勤線の性格があったのは、この30年の歴史でございます。

現在は、そのような歴史を踏まえて、奈良県の域内の交通移動の役に立つ鉄道網のあり方を考えることが必要になっている時代だと思います。域内の移動は、奈良県ではもっぱら自家用車で行われておりますが、自家用車は、高齢になりますと大変ハンディがございますし、交通事故もふえます。鉄道網を利用して、また、それに接続するバス路線を利用して地域内のいろんな活動ができる交通体系というものを思考しております。

鉄道の交通結節性という点では、奈良県はまだハンディがある状況でございます。ただ、駅前の整備は重要でございます。駅前らしい駅前というのは本当はない奈良県でございますが、先日、近鉄奈良駅におきまして、行基広場の大屋根を整備いたしました。雨が降っても駅前で人を待てるような駅前が普通でございますが、そのようなことがやっと実現できました。また、奈良市と連携いたしまして、JR奈良駅前のターミナルや街路の整備を行っております。

また、新しいアイデアといたしまして、奈良市南

部の大和北道路(仮称)奈良インターチェンジとJRが隣接する地域に新駅を設置して、鉄道と高速道路の結節点としての整備等を検討してまいりたいと思います。

また、議員がお述べになりましたリニア中央新幹線というような大幹線システムが奈良に参りますと、奈良県の交通体系は地域の交通体系としても一変する可能性がございます。今後の楽しみでもありますし、努力をすべき点がある分野でございます。

18番、森下議員のご質問がございましたが、同じように交通を重視した観点から、鉄道駅を中心とした商業施設の必要性を述べられました。古くからあります商店街は、全国幾つもそうでございますが、大変疲弊をしております。シャッター街と呼ばれる商店街がふえてきております。

また、先ほどのご質問で申し上げましたように、奈良の鉄道は、通勤するための乗降所としての機能だけがある鉄道駅が多いわけでございます。交流の拠点、買い物の拠点としての鉄道駅の整備というものはまだ進んでおりません。ところが、関東などを中心とした鉄道駅では、駅を中心に商業施設あるいは公共施設などが附属する傾向がございます。これは、公的な投資、また大型資本の投資が必要でございます。そのようなことがあれば、駅前を中心としたまちのにぎわいが創出できるわけでございます。駅の周辺には保育所があり、クリニックがあり、買い物拠点があり、自転車のレンタサイクルがあり、必要であれば自動車の駐車場もありといったような拠点としての整備が必要でございますが、市町村とのまちづくりの連携が必要な分野でございます。

一市一まちづくりといった構想で、市町村と県がアイデアを出し合いながら、各地域の特性に合わせたまちづくりを志向しておりますが、駅周辺のまちづくりも大きな課題でございます。高齢化を迎える奈良県でございますので、基本的には歩いて生活の利便が達成できるまちが理想でございますが、歩くのにプラス安全なコミュニティバスあるいは鉄道などによって買い物など、また通院などの生活利便があるようなまちをつかっていきたいと思っております。鉄道駅だけでなく、普通は城下町のお城を中心とした、また奈良のようなところでは社寺を中心と

した門前町のようなまちの形成過程がございますので、そのような核になるものは何かということをごまのアイデンティティーとも絡めて、まちづくりの整備を本格的な志向のもとにしていく必要があると考えているところでございます。

ご質問ありがとうございました。

○中村高校生議長

それでは、しばらく休憩します。

————— 午後2時17分 休憩 —————

————— 午後2時31分 再開 —————

○田中高校生議長

休憩前に引き続き、会議を開きます。



(奈良育英高等学校 田中佑樹議員)

次に、樞原高等学校、21番、西川尚希議員、22番、田中美帆議員、23番、小島京子議員に発言を許します。

○西川議員

樞原高等学校、21番、西川尚希です。商店街や個人商店の復興による県内消費の拡大のための方策についてお尋ねします。

奈良県は、平成24年度の小売業年間商品販売額が全国46位と最下位に近いものとなっております。一方、平成21年度の家計消費支出が全国3位という結果から、その消費意欲は、大阪などの大

規模商業施設などに魅力を感じ、県外に向いていると考えられます。



(檀原高等学校 西川尚希議員)

奈良県では、以前から有名な大和牛、大和肉鶏、そうめんはもちろん、最近では生駒市の幻のラムネと言われるレインボーラムネがあります。テレビ等に取り上げられ、注文が殺到、また、このレインボーラムネがふるさと納税の特典となっている影響もあり、納税額が増加して約1,800万円に達したと新聞記事にもありました。檀原市のまほろばキッチンも好評で、県外ナンバーの乗用車の駐車が目立っています。このように、観光客や県外への奈良県のPRとしては、ある程度の成果が得られていると考えます。

県内消費の拡大には、来県者に頼るだけでなく、県民による県内消費をふやすことが大きな課題です。県民の県内消費をふやすための方策として、大型小売店舗の誘致も行われていますが、一方で、昔からある商店街や個人商店における消費活動は活発とは言いがたいです。

私の地元の商店街もシャッターが閉まり、空き店舗が目立っています。全国的に苦戦する中で、高松市丸亀商店街のように大幅に通行量をふやしたまちもあります。奈良のもちいどの商店街も中小企業庁の新・がんばる商店街77選に選ばれ、活性化しています。県内消費の根底には、地元の人同士のふれあい、顔の見えるつき合いがある、このような個人商店の頑張りが欠かせないと私は考えます。

そこで、知事に質問いたします。

商店街や個人商店のさらなる活性化について、プレミアム商品券の発行支援以外に知事はどのよ

うな方策をお考えか、お聞かせください。

○田中議員

22番、田中美帆です。奈良県の女性の雇用率とその対策についてお尋ねします。



(檀原高等学校 田中美帆議員)

奈良県は3年前から大学新卒者の就職率が5%ほど上昇しています。しかし、平成22年度、女性の就業率は47位と、全国最下位となっています。さらに、平成24年度の女性の有業率は全国平均よりも6%程度低くなっています。また、平成22年度の県内就職者比率も全国最下位です。

このことから、多くの家庭において、夫が大阪などの県外で働き、妻が帰りの遅い夫のかわりに子育てや家事をしていると考えられます。そして、この原因として、一つは、奈良県には多くの雇用が見込まれる大企業が少ないこと、もう一つは、女性にとって働きたいと思えるような魅力的な職場が少ないことが挙げられます。さらに、産休・育休をとった後に女性が職場に戻りやすい環境なのかという問題もあります。私も将来就職を考えていますが、女性の立場から、産休・育休をとった後、職場に復帰しやすい環境であればいいと思います。

雇用対策について、奈良県の主な政策集にはこれまでの成果として、奈良労働局との奈良県雇用対策協定締結や奈良・高田のしごとiセンターの相談事業の充実、働きやすい職場づくりを推進する企業の登録などが書かれていますが、現段階では女性の就職率は数字的な上昇があまり見られないと感じています。

そこで、知事にお尋ねします。

知事は、奈良県の女性の雇用促進について具

体的にどのようにお考えですか。その考えをお聞かせください。

○小島議員

23番、小島京子です。奈良県の子どもの学習意欲を高める取り組みについてお尋ねします。



(檀原高等学校 小島京子議員)

奈良県の子どもの学習面について、全国学力・学習状況調査等の結果を見ると、「算数、数学の勉強が好き」と回答した子どもの割合は、平成25年度の小学校・中学校で43位、45位と、非常に低い結果となっています。しかし、算数、数学の平均正答率は比較的高く、それぞれ全国15位、12位です。この2つの結果から、勉強があまり好きではないのに成績はいいという子どもが奈良県には多いということがわかります。

そのようなねじれが生じる原因の一つに、奈良県の通塾率の高さが挙げられるのではないかと私は考えます。平成25年度の小学生・中学生の通塾率アンケートでは、それぞれ全国4位、1位となっています。塾に通うことが勉強嫌いにつながるとは言えませんが、小さいころから塾に通わされることで、強制的にやらされている感覚になり、勉強に対する関心が薄れていくと思います。

また、外で体を動かしたり遊んだりして社会性などが育つときに勉強ばかりに目を向けさせると、規範性や社会性の低下につながるのではないのでしょうか。何かを学ぶとき、自由意思から勉強するというのが理想であり、そういうものを大切にしていきたいと思います。そして、のびのびとした子どもが育つと、さきに述べた奈良のランキングも比例して上がっていくと思います。

そのためには、生徒一人ひとりに合わせた学びの環境を小中学校でつくっていくことが大切だと思います。ふだんの授業ではそういった学習は難しいかもしれませんが、放課後や休日に勉強を好きにさせることを目的とした講座や、より応用性を伸ばしたい子のための講座を開き、それぞれの学習を進めることができれば、とても効果的ではないでしょうか。

そこで、教育長に質問いたします。

奈良県では、今後、勉強好きの子どもをふやす取り組みについて、どのようにお考えですか。その考えを聞かせてください。

○荒井知事

21番、県立檀原高等学校、西川議員のご質問にお答え申し上げたいと思います。商店街や個人商店の活性化の方策についてのご質問でございます。

奈良県の県内消費は、ご指摘のように、なかなか活性化がいきません。奈良の人はいいものを見る目利き、判断は高いものがあると思います。一方、いいものを売っている店が少ないとも言われております。その結果、県内で消費されるよりも県外で消費される人、物の量が多く、小売業につきましては赤字の体質でございます。県外よりも県内で物が売れるような体質の地域にする必要があるかと思いますが、そのためには物を売る努力、また物を売る能力を高めていく必要があるかと思えます。

買い物環境としては、奈良県は、ご指摘のように、ベッドタウンとして発展をしてみりました。その結果、県外就労のついでに県外消費も行われてきた結果になっております。高齢化社会が到来いたしますと、県外通勤はなくなりますが、県外消費の風習だけが残るということにならないか心配しているところでございます。

いいものを売る店を多くつくと、その結果、商店街の活性化が図られるといった循環が望ましいと思います。いいものを売る店をつくとともに、商店街の活性化を並行して進める必要がございます。市町村とまた民間グループと協働して取り組むモデル事業を実施しております。また、魅力ある店

舗の立地促進に向けて、その機運を醸成するための勉強会を平成23年度から実施しています。皆様ターゲットにするような、あの店はいいぞ、まねてみようかという評判になるような店をつくる必要があるかと思えます。悪いレベルでの粒ぞろいではなく、いいレベルの店が目立ってくるような商店街にしていきたいと思えます。勉強会を実施してまいりましたが、12軒のお店の開業や改装につながりました。

将来どのような方向に西川議員が向かわれるかわかりませんが、自営で商売するという道もありになるかと思えます。県といたしましては、そのように起業される方に対して無利子融資制度の創設など、創業に対する金融支援の充実も図ってまいりたいと思っております。

そのような努力が重なって商店街が活性化するものだと思います。言うはやすく、行うはかたし、実現が難しい分野でございますが、努力をしないいいまちが生まれるわけではございませんので、具体的な努力を積み重ねるしかないように思っております。

次に、22番、県立橿原高等学校、田中美帆議員のご質問がございました。女性の雇用促進というテーマでございます。大変重要なテーマでございます。



議員のご指摘のように、奈良県の女性の就業率は、依然、全国最下位でございます。どういことになったのかと思いをいたしますが、これも議員がお述べになりましたように、県外就業のご家庭が多い、3割から4割に達する県外就業のご家庭でございます。当然、女性は、遅く帰られるお父さんの帰りを家で待って、元気をつけて、また働いていって

もらうということでございます。帰宅時間が一番遅いのも奈良県のご家庭であると聞いております。また、子どもさんの塾通いなどで帰宅時間の遅いのも奈良県が一番だと聞いております。そのような結果、女性につきましては、就労したいというご希望が強いにもかかわらず、就労の機会が少ない、身近な職場がないという結果になっております。

ただ、最近では30歳から34歳の世代の就業率は向上してきております。全体としてベッドタウンが形成された時代のお母さんたちは専業主婦が多かったわけでございますが、若い世代のお母さんは共稼ぎ家庭が多くなっている奈良県の実情でございます。

女性が働くとともに、子育て、家庭も守るという仕事と家庭の両立をしていただくためには、女性のワーク・ライフ・バランスといったことの確立が必要かと思えます。また、さらに、結婚・子育てをされた女性の再就職も必要でございます。そうでないと、少子化という問題にも直面しておりますが、仕事をとるか結婚・子育てをとるかといった難題に直面されて、結局は離職という道をたどられる女性が多いのも実情でございます。子育て等で離職した女性がスムーズに再就職できるような相談窓口を開設いたしました。奈良労働局と連携して就職相談から職業紹介までを一体的に行うものでございます。

また、雇用という観点でなく、自分で事業を行う起業という観点も重要でございます。奈良県内では年間150名から200名の女性が起業をしておられます。また、女性の社長が割と多いのも奈良県の特徴でございます。女性の起業、自営を興される、会社を興される女性を応援したいと思っております。具体的には、そのような方々に向けてのセミナーの開催や起業家同士のネットワークづくりも実施したいと思えます。

また、家庭でもできる仕事、テレワークといったようなインターネットで仕事が配信されてくる仕事の分野をふやすほか、奈良県では女性の翻訳者を養成するという、一つの分野に着目した養成塾を開講しようとしております。日本のいろんな貴重な人文系の資料を英語に訳すという事業を起こす方でございます。

女性の就職率が低いのは、逆に労働力が温存

されている、隠されているという面もございますので、温存された女性の労働力を発掘して生かす必要があるときが来ているように思います。

3番目の勉強好きの子どもをふやす取り組みについては、教育長がお答え申し上げますが、小島議員の塾通いが頻繁になると学習意欲が低下するのではないかとのご指摘は、鋭いご指摘のように感じましたので、そのことについてのみ付言をさせていただきますたいと思いました。

ご質問、ご意見ありがとうございました。

○吉田教育長

23番、県立樺原高等学校、小島議員の勉強好きの子どもをふやす取り組みについて、どのように考えているのかとのご質問にお答えいたします。



教員が授業の中で知る喜び、わかる喜びを十分に味わえる、そのような授業を行うと、子どもの学ぶ意欲が引き出され、その上で子どもの内発的な動機づけを大切にする、そんな学習環境を整えると、子どもは学ぶ意欲が高まり、勉強が好きになると思っています。

県教育委員会では、小学校で特に子どもがつまずきやすい分野について、興味・関心が湧き、わかりやすく意欲の出る授業モデルと、授業で使えるワークシートを今年度中に全教員が利用できるような作成いたします。

また、放課後や休日を活用して、子どもが自主的・自発的に学習できる放課後子ども教室推進事業を実施いたしております。この教室では、地域の方や専門家を招き、昔話や身近な歴史、また科学教室等の学習に多くの小中学校で取り組んでいます。

さらに、本年度開校した青翔中学校では、理数を学ぶ意欲が中学校で大きく低下している、この課題の解決も目指しております。実験・観察等の体験的な学習を多く取り入れ、土曜日などに授業公開するなど、中学生の科学的な好奇心や探究心を育む、そんな取り組みとなるよう進めてまいります。

これらの取り組みを気持ちを込めて充実させ、本県で学んだ子どもたちがますます勉強好きになり、生涯学び続ける自立した社会人へと成長してくれることを心から願っております。

ご質問ありがとうございました。

○田中高校生議長

次の質問を行います。

次に、五條高等学校、26番、中村芽萌議員、27番、北川玲菜議員、28番、東綾菜議員に発言を許します。

○中村議員

五條高等学校、26番、中村芽萌です。家族団らんを取り戻すことについてお伺いします。



(五條高等学校 中村芽萌議員)

昨年度の奈良県の小中学生の生活に関するデータによりますと、早寝早起きの割合や朝食摂取量は全国でも最低水準となっています。一方、テレビを見ている時間や携帯電話の所有率、ネット情報の使用率は高い値を示しています。さらに、小中学生の通塾率が非常に高く、逆に自宅での学習率は非常に低くなっています。

このことから、本県の小中学生について、テレビや携帯電話、ネットに依存する一方、塾での勉強に追われ、家族とのふれあいも少なくなっている様

子が見えてきます。家族で同じ時間、同じ場所においても時間を共有していないという現象が起こっているのです。

スマートフォンなどのハードの普及に伴うSNSなどのサービスの広まりの影響により、子どもの自由な時間が友達とのコミュニケーションのための時間にとられているのかもしれませんが、もちろん、1日の実労働時間が長くなり、父母の帰宅時間が遅くなることによって、親子が家庭の中ですれ違いを起こしていることも、家族とのふれあいが少なくなっている大きな原因と言えるでしょう。

子どもが成長する場所は家庭と学校と地域です。今、本県では、子どもの成長の重要なファクターである家庭から、家族団らん、親子のふれあいが失われつつあります。心身の成長が著しく、友達関係に悩みを持ったりする多感な小中学生の時期に、家族との大切なコミュニケーションが失われていては、その健全な成長を望むことはできません。父母がせめて休日には心のゆとりと時間の余裕を持ち、じっくりと子育て、家族とふれあうことで、小中学生が抱える幾つかのクライシスを学校任せにせず、事前に回避したり克服したりすることができると思います。

そこでお伺いします。

親子がコミュニケーションを十分とることができる家族団らんの機会をふやすため、本県では現在どのような施策を行っておられますか。お教えてください。

○北川議員

27番、北川玲菜です。観光リピーターをふやすための長期滞在型観光プランについてお伺いします。

高齢社会を迎えた日本では、駆け足の旅行よりも、何度もその地を訪れ、じっくりと腰を落ちつけてくつろぎたくなる高齢者にやさしい観光プランに大きな需要が見込めるのではないかと思います。特に、日本人の心のふるさとである古事記の世界、万葉の風景を有する本県の観光資源は、そのような長期滞在型の観光に適した条件を備えていると思います。

高齢者にやさしい観光は、体に不自由を持った

方や都会の喧騒に疲れた方にとっても心地よいもてなしの観光につながります。長期に奈良に滞在していただくことで、丸一日かけて体験するような柿の葉ずしづくりや奈良墨、一刀彫りなどの伝統工芸品づくりにも親しんで、奈良の魅力をますます感じていただければ、自然とリピーターがふえ、奈良の観光需要は2倍、3倍になることも可能だと思います。



(五條高等学校 北川玲菜議員)

私は、沖縄県の石垣島に修学旅行に出かけた際、琉球の楽器を演奏しました。沖縄の豊かな自然の美しさとともに、島のおばあから優しく教えていただいた体験が今でもありありと思い浮かびます。

このように、本県のよさを感じたり、もてなす側とのコミュニケーションを深めたりして、他府県のどこにもないもてなしを感じ、本県を何度も訪れてくれる人をふやすためには、地元と連携した体験プランを組み込んだ長期滞在型の観光プログラムをつくっていくことが有効ではないかと考えます。

ところが、現実には、奈良県に滞在する観光客がとても少ないという現状があります。交通が便利になったことや価格競争の影響、大規模な宿泊施設の不足などもあるかもしれませんが、そもそも1週間、2週間と奈良に滞在したくなるような観光プログラムを十分示すことができていないこともその理由の一つではないでしょうか。

そこでお伺いします。

奈良県における長期滞在型の観光プログラムの開発が重要と考えますが、知事は現在、宿泊観光についてどのような施策を行っておられますか。お教えてください。

○東議員

28番、東綾菜です。大規模災害発生時の県外からの避難者受け入れについてお伺いします。



(五條高等学校 東綾菜議員)

歴史上、奈良県は、これまで幾度か大きな災害に見舞われ被害をこうむってきました。記憶に新しいところでは、2011年の紀伊半島大水害により、十津川村や天川村、我が五條市で多数の人が亡くなられたり、住居を流されたりしました。被災地に向かう道路もあちこち寸断されるなど、甚大な被害がもたらされました。

五條高等学校近くには応急仮設住宅が57戸設置され、本校からも家庭クラブなどが定期的に見守りの訪問ボランティアを実施したりしました。被害を受けられた地域の復興の取り組みは、幸いにも着実に進んでいると伺っています。

近い将来、東南海地震など新たな大災害が発生すると再三警告されています。その際、奈良県にも大きな被害がもたらされる可能性が高いのはもちろんですが、東日本大震災発生後の状況を見れば、比較的被害の少なかった周辺の県がたくさんの被災者を受け入れたように、本県が非常に多数の被災者を受け入れる役目を担うことも大いに考えられるのではないのでしょうか。

そこでお伺いします。

本県作成のパンフレット『みんなで取り組む震災対策』で、大地震による県内の被害想定、特に県内にある活断層による地震の被害想定についてまとめられていますが、大地震発生時の震度や本県へ避難してこられる被災者数をあらかじめ想定するなど、避難者を受け入れるための対策についてはどのように計画しておられますか。お教えてください。

○荒井知事

26番、県立五條高等学校、中村議員のご質問がございました。

家族団らんを取り戻すことに対して本県の施策というご質問、大変難しいご質問であるように感じました。といたしますのは、家族の団らんは大変重要なことでございます。また、議員がお述べになられたことには全く同感でございますが、家族団らんに対して県がどのようなことができるのかということについては、なかなか難しいご質問だなというのが正直な印象でございます。

したがって、本県はこのようなことができるよというようなお答えにはならないわけでございますけれども、まず、ご家庭は教育の場であるということについては全く同感でございます。とりもなおさず、お子様にとりましてはご家庭こそが教育の場、また、議員がお述べのように、学校以外に家庭と地域と、その3つが教育の場であるということは正しいご認識かと思えます。

私の古い昔の経験からいたしましても、家庭は結構忙しい商売の家でございましたが、おばあちゃんがおられたのが幸いございました。信心深いおばあちゃんでもございましたが、家の中でぶつくと耳に達する言葉をいろいろ言われて、それが大変教育効果があったように思っています。今はテレビのぶつくとぶつくと、きゃあきゃあというものが聞こえるのが多くて、教育的な効果は少ないように思えます。おばあちゃんに言っていた言葉は今も頭の中に残っております。私ごとで恐縮でございますが、天はいつも見てござるよ、陰ひなたなくお務めしなきやいかんよということを、私に言うのではなしに、ぶつくとぶつくと言うのが耳に達して、生涯忘れない教育効果があったという意味でご披露申し上げます。また、いつまでも、学校を出ても試験があるぞと、試練はあるぞと、心して学校で教育を受け、卒業しなきやいかんよということも言っておりました。大変役に立つ言葉をいただいたと思って感謝しておりますので、役に立つ言葉の一つになろうかと思ってここで改めてお伝えするわけでございます。

議員がお述べのように、現在の家庭の環境は、お父さんもお母さんも忙しいし疲れている、また、

テレビやゲームがあるので、それぞれのかかわりごとに忙しい、対話が少ないのではないかというのが家族の実情でございます。また、近所に出かけて遊んだ経験もございますが、最近では近所に出かけて遊ぶというのも難しい状況になっております。家庭の環境をどのようによくするのか、ご家族での問題が発生したときにはいろいろ相談を受けたりするわけですが、いいご家庭を築くための地域のカルチャーあるいは環境をどのように整えるのかといった、大変深い重要な課題を議員はご指摘になっているように思います。

奈良県では2年ほど前から地域教育力サミットというものの検討の会議をしております。教育には学校以外に家庭と地域の助力が必要だという観点からの検討でございます。まだ十分な検討の成果は出ておりませんが、議員のお述べになった所論は大変正しいものだと感じておりますので、そのお考えに沿った家庭も含めました地域教育力の強化の道筋について、どのように県あるいは市町村が役に立つ環境整備をできるかについて検討を深めていきたいと思うところでございます。



27番、北川議員のご質問がございました。観光リピーターをふやすための長期滞在型観光プランのあり方、実行の仕方ということでございます。

沖縄に行かれたご経験を踏まえたご質問でございますが、リゾート型の観光地というふうに奈良県はなかなか切れないところがございます。どちらかといえば見学型、ちょっと訪れて大仏を見て、次の観光地に行くといった観光が多いように思います。ゆっくりと滞在をして楽しむ観光地にまだなり切っていないわけでございます。ただし、これまでに奈良の魅力に引かれて長期滞在をして、奈良を

楽しまれた旅行者もおられます。

長期滞在の条件は滞在費が安いということと楽しみが多いということでございますが、楽しむ素材については、バラエティーがある素材、また、常時楽しむ素材、また、偏った奈良の文化素材だけでなく、お子様や女性の方も楽しめるような楽しみが提供できるような全世代・全要望・全趣向に対応できるような観光地として成長する必要があるかと思っております。

これからの一つの軸は健康と食というふうに思います。よく歩いて楽しめる、おいしいものが食べられる、また、ゆっくりとして癒されるといったようなことが大事かと思っております。訪れて見て知ったというのは短い時間で済みますし、今は通信・映像技術が発達していますので、行かなくても臨場感あふれる画面で楽しむことができる時代でございます。アームチェア・トラベラーズといいますが、アームチェアというような椅子に座って世界遺産を見た気になるといった旅行者気分の人のことをそのように言っているわけでございます。そのようなこともできる時代でございますので、現実の場に行って楽しめる観光地として奈良県が成長するよう、引き続き努力を重ねていきたいと思っております。

28番、東議員のご質問は、大規模災害発生時の県外からの避難者受け入れについてのご質問でございます。

ごく最近、広島県で土砂崩れによる大きな災害がございました。思いもつかないような死者が発生いたしました。心からお悔やみを申し上げる次第でございます。あのような土砂災害が身近で起こるといったタイプの災害は、十分な準備ができない、急に起こることが予想されております。自分の身は自分で守ることが基本になりますが、しかし、どのような危険が発生するのか、そのリスクの増大をお伝えして、災害から逃れて命を助けていただくのが県あるいは市町村の大きな役目でございます。

それは、いろんなタイプの被災をされた方をご支援申し上げる、現地に行ってお支援申し上げるといったことも含めて支援するのが基本になると思っております。

被災された方の受け入れでは、奈良県では福島県から逃れられた方を受け入れる経験をさせてい

いただきました。これは、いろんなご不自由のないような仮設住宅あるいは県営住宅のご提供、あるいは、いろんな便宜を図ることによって、ご実家の近くの仮設住宅とは比べものにならない避難生活をしていただいたものと思います。

そのような経験を踏まえて、それが大規模になっても、奈良県は避難しやすい、受け入れが温かいという支援の体制を整えていきたいと思っております。また、そのような被災された地域に手を差し伸べる努力も日ごろから行っていきたいと思っております。人を助けようとする者はまた助けられることも多いということを心に刻んで実行していきたいと思うところでございます。

ご質問ありがとうございました。

○田中高校生議長

これをもって、県政に対する質問を終わります。

— 高校生からの提言と同採決 —

○田中高校生議長

次に、住みよき魅力ある奈良県づくりについての提言を行います。

添上高等学校、1番、稲本華歩議員から提言第1号、スポーツとともにある奈良の街づくりについて提言決議方の動議が提出されましたので、稲本華歩議員に趣旨弁明を求めます。

提言第1号

～スポーツとともにある奈良の街づくり～

○稲本議員

添上高等学校を代表して、提言第1号、スポーツとともにある奈良の街づくりにつきましては、提言文の朗読をもって提案にかえさせていただきます。



(添上高等学校 稲本華歩議員)

添上高等学校では、多くの生徒が部活動に参加していて、特に運動部は、毎年インターハイに出場して良い成績を残しています。そのような、スポーツに活発に取り組んでいる添上高等学校としては、県民の皆さんに少しでもスポーツに興味を持ってもらいたいですし、スポーツとともに生活を送ってもらいたいと思っています。

しかし、私達学生には部活動や体育の授業等でスポーツを行う機会が比較的ありますが、大人やお年寄りの方々は、そのような機会があまり無いのではないかと思います。それでは、私達が考える「奈良県の皆さんがスポーツとともに人生を送る」という生活には近づくことが出来ません。ですから、私達は、中高生といった学生だけではなく、大人やお

年寄りの方々、さらには小さな子ども達を含めた幅広い世代が気軽にスポーツに親しめる場所や企画を作ることを提案します。

この提案は、「活き活きと安心して健やかに暮らせる健康長寿の奈良県」を実現するため、生涯にわたり「県民のだれもが、いつでも、どこでも運動・スポーツに親しめる環境づくり」を目指すという奈良県の政策目標実現への第一歩になると私たちは考えています。

スポーツを県民の皆さんが共有することによって、県民同士の絆も深まり、ひいては奈良県全体が活性化すると思います。住みよき魅力ある奈良県づくりの為には、県民の皆さんがスポーツを生活の一部とした、スポーツとともにある奈良の街をつくる必要があると私達は考えています。

平成26年8月21日 奈良県高校生議会

ぜひともご賛成いただきますよう、よろしくお願いいたします。

○堀内議員

ただいま稲本華歩議員から提案されました提言第1号、スポーツとともにある奈良の街づくりについて賛成します。

○田中議員

ただいま稲本華歩議員から提案されました提言第1号、スポーツとともにある奈良の街づくりについて賛成します。

○田中高校生議長

ただいまの動議は、正規の賛成があつて成立しました。

よって、直ちに議題とします。

お諮りします。

提言第1号については、1番、稲本華歩議員の動議のとおり決することに賛成の議員の起立を求めます。

(賛成者起立)

ご着席願います。

起立多数であります。

よって、提言第1号については採択することに決しました。

○田中高校生議長

次に、智辯学園奈良カレッジ、8番、上田萌湖議員から、提言第2号、奈良の魅力ある仏教文化を利用した観光産業の振興について提言決議方の動議が提出されましたので、上田萌湖議員に趣旨弁明を求めます。

提言第2号

～奈良の魅力ある仏教文化を利用した観光産業の振興～

○上田議員

智辯学園奈良カレッジを代表して、提言第2号、奈良の魅力ある仏教文化を利用した観光産業の振興につきましては、提言文の朗読をもって提案にかえさせていただきます。



(智辯学園奈良カレッジ 上田萌湖議員)

私たちは、活力ある奈良県づくりのために次のように提言します。

活力ある奈良県づくりのためには、観光産業の発展が重要です。そこで、東南アジアからの観光客に奈良の仏教文化を体験してもらおうツアーを企画し、奈良県の観光と文化を振興してはどうかと考えます。近年、海外、特にベトナム・タイなどの東南アジアからの観光客が増加しています。先日もインドネシア・ベトナムなどのビザ発給条件が緩和されたとの報道がなされ、ますます東南アジアからの観光客の増加が見込まれます。東南アジアは日本と同じ仏教文化がある国が多く、仏教文化の体験は受け入れられやすいと考えます。

具体的な計画としては、修行体験・宿泊・食事をパッケージとして、観光客に提供します。修行体験は、写経・写仏・滝行・読経・講話・座禅などを希望

により組み合わせます。宿泊は寺の宿坊が望ましいのですが、東南アジアには入浴の習慣が無いので、シャワーを設置するなど、快適に過ごせるような工夫をする必要があるかもしれません。食事は精進料理や奈良の特産物を使った料理を用意します。また、夜の観光イベントを、春は桜、夏は燈花会、秋は紅葉、冬は祭礼など、季節や場所に合わせて提供することで、リピーターの方にも、飽きのこないような気を配ります。このような、体験を主としたパッケージを幅広く提供することにより、奈良県の文化を知ってもらい、SNSによる口コミなどで、リピーターだけでなく、新規の観光客の獲得にも努め、観光産業の振興を図ります。今回、活力ある奈良県づくりについて提言させて頂きました。今後、古都奈良が、魅力と活力あふれる奈良県に発展していくことを期待し、次世代を担う若者として、自覚と責任をもって、勉学と地域活動に励んでいきたいと思っております。

平成26年8月21日 奈良県高校生議会

ぜひともご賛成いただきますよう、よろしくお願いいたします。

○國澤議員

ただいま上田萌湖議員から提案されました提言第2号、奈良の魅力ある仏教文化を利用した観光産業の振興について賛成します。

○北川議員

ただいま上田萌湖議員から提案されました提言第2号、奈良の魅力ある仏教文化を利用した観光産業の振興について賛成します。

○田中高校生議長

ただいまの動議は、正規の賛成があつて成立しました。

よつて、直ちに議題とします。

お諮りします。

提言第2号については、8番、上田萌湖議員の動議のとおり決することに賛成の議員の起立を求めます。

(賛成者起立)

ご着席願います。

起立多数であります。

よって、提言第2号については採択することに決しました。

○田中高校生議長

次に、奈良育英高等学校、14番、平家諒太議員から、提言第3号、地域一体型の学校づくりについて提言決議方の動議が提出されましたので、平家諒太議員に趣旨弁明を求めます。

提言第3号

～地域一体型の学校づくり～

○平家議員

奈良育英高等学校を代表して、提言第3号、地域一体型の学校づくりにつきましては、提言文の朗読をもって提案にかえさせていただきます。



(奈良育英高等学校 平家諒太議員)

私達は奈良県における地域活性化のために、地域一体型の学校づくりの具体的内容及び方法を提案し、提言に代えたいと思います。まず、地域と学校とのつながりをもっと強いものにしていくために2つ、提案させていただきます。

1つめは、私達の学校の生徒と、地域の方々と定期的に話し合う場を設け、そこで地域と学校とが互いの情報を共有し、話し合った情報を学校のホームページだけでなく、奈良県などのホームページに掲載するという事です。お互いの情報を載せることで、学校または地域の現状が分かり、また、学校が生徒だけの拠点ではなく、地域全体の拠点ともなると考えます。このことによって、地域の方々にも学校に対する理解を深めてもらえると思います。

2つめは、各地域において市町村と学校の共催イベントを開催することです。例えば、地域の方々と歩道などに花を植えたり、植樹するのはいかがでしょうか。生徒・教師と地域の方々が同じ目的をもって活動することによって、学校から、地域からという複数の視点で自分達の街を見ることができると思います。そして、地域と学校とのつながりも強まるはずです。

最後に、地域の活性化のためには、私たちの学校が、地域に貢献できる学校として成長することが大事であると考えます。

今回、私達から奈良県における地域一体型の学校づくりを提案させて頂きましたが、今後、地域の方々のご意見を参考にしながら、学校と地域の距離を縮めることができれば、奈良県の各地域に活気がみなぎるようになると思います。

平成26年8月21日 奈良県高校生議会

ぜひともご賛成いただきますよう、よろしくお願いいたします。

○北谷議員

ただいま平家諒太議員から提案されました提言第3号、地域一体型の学校づくりについて賛成します。

○森下議員

ただいま平家諒太議員から提案されました提言第3号、地域一体型の学校づくりについて賛成します。

○田中高校生議長

ただいまの動議は、正規の賛成があつて成立しました。

よって、直ちに議題とします。

お諮りします。

提言第3号については、14番、平家諒太議員の動議のとおり決することに賛成の議員の起立を求めます。

(賛成者起立)

ご着席願います。

起立多数であります。

よって、提言第3号については採択することに決

しました。



○田中高校生議長

次に、関西中央高等学校、19番、川畑陽洋議員から提言第4号、奈良県にJRの環状線をについて提言決議方の動議が提出されましたので、川畑陽洋議員に趣旨弁明を求めます。

提言第4号

～奈良県にJRの環状線を～

○川畑議員

関西中央高等学校を代表して、提言第4号、奈良県にJRの環状線をにつきましては、提言文の朗読をもって提案にかえさせていただきます。



(関西中央高等学校 川畑陽洋議員)

私たちは、奈良県内の町おこしなどの活動や歴史的観光資源を結ぶ輸送手段として、現在あるJRの環状線化を提案します。

現在、奈良県内のJRは、奈良駅から天理－桜井－高田－王寺駅を結ぶ万葉まほろば線と、王寺駅から法隆寺－奈良駅を結ぶJR大和路線が走っています。この2つの路線は、既に環状に線路があります。そこで、王寺駅と奈良駅で相互に乗り入

れ、環状に運行することで、本数及び車両数を増やす計画です。

しかし、万葉まほろば線の状況は、日中の運行は1時間に2本で、車両は2両しかありません。これは乗客数が少ないことが原因ですが、乗客が少ないから本数や車両数を少なくするというのでは、ますます不便になり、本数や車両数がさらに減ってしまうことになります。本数と車両数を増やすだけでは、空っぽの電車が走るだけとなってしまいますが、JRを環状線化することによって、乗客の利便性を大幅に向上させることができます。さらに、沿線の京終、天理、巻向、三輪、桜井、畝傍などの各駅前の再開発により魅力ある商業施設をつくり、その駅に隣接する観光スポットや名所に対しても支援を行うことで、大阪や京都と結びついた王寺駅と奈良駅に多くの観光客を呼び込み環状線の利用者の増加を望むことができると考えます。このように、経済と交通の活性化に効果を図ることができるJRの環状線化を提言いたします。

平成26年8月21日 奈良県高校生議会

ぜひともご賛成いただきますよう、よろしく願います。

○小島議員

ただいま川畑陽洋議員から提案されました提言第4号、奈良県にJRの環状線をについて賛成いたします。

○本杉議員

ただいま川畑陽洋議員から提案されました提言第4号、奈良県にJRの環状線をについて賛成します。

○田中高校生議長

ただいまの動議は、正規の賛成があつて成立しました。

よつて、直ちに議題とします。

お諮りします。

提言第4号については、19番、川畑陽洋議員の動議のとおり決することに賛成の議員の起立を求めます。

(賛成者起立)

ご着席願います。

起立多数であります。

よって、提言第4号については採択することに決しました。

○田中高校生議長

次に、樫原高等学校、24番、中川恭議員から提言第5号、「大仏開眼1300年祭」を目標に、古き良き町づくりと奈良の歴史に特化したイベントによる観光客の誘致について提言決議方の動議が提出されましたので、中川恭議員に趣旨弁明を求めます。

提言第5号

～「大仏開眼1300年祭」を目標に、古き良き町づくりと奈良の歴史に特化したイベントによる観光客の誘致～

○中川議員

樫原高等学校を代表して、提言第5号、「大仏開眼1300年祭」を目標に、古き良き町づくりと奈良の歴史に特化したイベントによる観光客の誘致につきましては、提言文の朗読をもって提案にかえさせていただきます。



(樫原高等学校 中川恭議員)

私たちは、「大仏開眼1300年祭」を目標に、古き良き町づくり、奈良の歴史に特化したイベントの開催を提案します。

ここで言う古き良き町づくりというのは、端的に言うとりノベーションです。古くからある建物を、その外観はそのままに内部を改修し、若者からお年寄りまで幅広い年齢層にうける、新たな機能や用途を持った建物にする、といったことです。現在、「なら

まち」は、奈良の観光スポットとして成功を収めています。「ならまち」のような町に対する需要は大いにあるということです。もちろん商業施設としてだけでなく、心地よい居住空間、住宅施設を備えた町づくりを目指します。

さらに、古代の都平城京の75メートル幅と言われた朱雀大路をイメージした道路建設。たとえば自動車専用道路はもちろん、街路樹、沿道の店、子どもやお年寄りが安心して歩ける歩行者専用道路を完備した世界に類を見ない、安心かつ巨大な道路を建設するという壮大なプロジェクトも面白そうです。巨大地震発生時における、緊急避難のための飛行機、ヘリの離着陸にも活用できそうです。

また、そのような町づくりを行う中で、平城京天平祭や薬師寺での奉納コンサートのような、奈良の歴史に特化した、古代と現代が入り混じったイベントの開催をしていくことが重要だと考えます。

先に述べたような町づくりやイベントによって観光客を増やすことにより、私たちが提案する「大仏開眼1300年祭」の成功へと繋げていくことができると考えます。提案理由は、「平城遷都1300年祭」が総来場者数約2,140万人という当初の予想を上回る人々が訪れ、これによる経済波及効果は県内へ約970億円、近畿内へ約1,460億円、国内へ約3,210億円という非常に高いものであったからです。このことから、今後も大規模な〇〇年祭という記念イベントは非常に効果的だと考えます。今から約40年後、高校生である私たちが社会人として取り組み、定年退職する前の最後のイベント「大仏開眼1300年祭」を開催、成功させたいと思います。

そして、この大目標のためにも、古き良き町づくりと奈良の歴史に特化したイベントの開催を提案します。

平成26年8月21日 奈良県高校生議会

ぜひともご賛成いただきますよう、よろしく申し上げます。

○北村議員

ただいま中川恭議員から提案されました提言第5号、「大仏開眼1300年祭」を目標に、古き良き町づくりと奈良の歴史に特化したイベントによる観光

客の誘致について賛成します。

○平家議員

ただいま中川恭議員から提案されました提言第5号、「大仏開眼1300年祭」を目標に、古き良き町づくりと奈良の歴史に特化したイベントによる観光客の誘致について賛成します。

○田中高校生議長

ただいまの動議は、正規の賛成があって成立しました。

よって、直ちに議題とします。

お諮りします。

提言第5号については、24番、中川恭議員の動議のとおり決することに賛成の議員の起立を求めます。

(賛成者起立)

ご着席願います。

起立多数であります。

よって、提言第5号については採択することに決しました。

○田中高校生議長

次に、五條高等学校、29番、山田泰寛議員から提言第6号、県内観光地ごとのレンタ・サイクル・エリア設定による、CO₂削減と観光振興をについて提言決議方の動議が提出されましたので、山田泰寛議員に趣旨弁明を求めます。

提言第6号

～県内観光地ごとのレンタ・サイクル・エリア設定による、CO₂削減と観光振興を～

○山田議員

五條高等学校を代表して、提言第6号、県内観光地ごとのレンタ・サイクル・エリア設定による、CO₂削減と観光振興をにつきましても、提言文の朗読をもって提案にかえさせていただきます。

本県のCO₂排出源は自家用運輸の部門の割合が大きく、全国の倍近い割合を示しています。自動車の人1人を1キロメートル運ぶのに排出するCO₂量は約45グラムです。自転車の場合、CO₂の排出量はなく、環境負荷の大変少ない乗り物です。ま

た、近年の健康志向のブームに乗り、自転車利用が増えつつあるようです。

本県では、観光スポットが県内各所に分散しており、効率よく廻るには自家用車などに頼らざるを得ません。

フランスのパリでは、レンタ・サイクル・システムVelibを導入しています。市内各所に設置された駐輪場の自転車を24時間いつでも借りることができ、使用後はどの駐輪場に返却してもよいというシステムです。本県でも、自転車通行環境整備モデル地区が2か所ありますが、レンタ・サイクルとは連動していません。



(五條高等学校 山田泰寛議員)

私は幼い頃から自転車に乗るのが好きで、今でも自転車で気軽に地元御所市内各所を廻っています。自転車で走っていると、吹き抜けていく風を体感できてとても爽やかです。

そこで、提案いたします。本県ではエリアごとに「祈りの回廊」と銘打って県内社寺を多数紹介されています。こうした観光スポットに、自転車通行の環境を拡充し、レンタ・サイクルが気軽に利用できるシステムを併せて整備してはどうでしょうか。

このシステムを導入することで、県内観光スポットへ自動車の乗り入れが減り、CO₂削減による「エコ・ツアー」という付加価値が期待されます。また、先程質問した「家族の団らん」や「観光リピーター」の増進など、本県の抱える課題の解消にもつながります。

更に大規模災害時には、自動車に代わる移動・輸送手段として、このシステムを活用することもでき、本県が大規模災害地のシェルターの役割を担う一助になると思います。

平成26年8月21日 奈良県高校生議会

ぜひともご賛成いただきますよう、よろしくお願ひ
します。

○上垣議員

ただいま山田泰寛議員から提案されました提言
第6号、県内観光地ごとのレンタ・サイクル・エリア
設定による、CO₂削減と観光振興をについて賛成
します。

○射場議員

ただいま山田泰寛議員から提案されました提言
第6号、県内観光地ごとのレンタ・サイクル・エリア
設定による、CO₂削減と観光振興をについて賛成
します。

○田中高校生議長

ただいまの動議は、正規の賛成があつて成立し
ました。

よつて、直ちに議題とします。

お諮りします。

提言第6号については、29番、山田泰寛議員の
動議のとおり決することに賛成の議員の起立を求
めます。

(賛成者起立)

ご着席願ひます。

起立多数であります。

よつて、提言第6号については採択することに決
しました。

これをもつて、住みよく魅力ある奈良県づくり
についての提言を終わります。

○田中高校生議長

以上をもちまして、奈良県高校生議会を閉会し
ます。

○芝池議会議務局長

中村議長、田中議長、高校生議員の皆様、大変
お疲れさまでした。

では、ここで荒井正吾奈良県知事から本日の奈
良県高校生議会についてお言葉をいただきます。

知事所感

○荒井知事

閉会に当たりまして感想を申し上げたいと思いま
す。

本日は皆様に議員体験をしていただきました。
いかがでございましたでしょうか。本日の議事進行
は、いつもの本会議と全く同じものでございます。
その質疑の内容につきましては、本物の議員様に
劣らないご立派な、ご質問・ご意見が多くあつたよ
うに思っております。

皆様といろいろな議論をさせていただきました
が、よく勉強されていて、的を射たご質問ばかりで
ございました。また、参考になるご提言がたくさんあ
り、大変うれしく、頼もしく感じた次第でございます。
いただきましたご意見・ご提言などにつきましては、
今後の奈良県政に十分尊重させていただきたいと思
っております。

どうか皆様方、これからも奈良県政に関心を持ち
続けていただきたいと思います。そして、皆様お一人
お一人が、住みよく魅力ある奈良県づくりのため、
将来、それぞれのご希望の分野でご活躍されること
を期待しております。皆様の中には本物のこれからの
議員様、知事様が出られる可能性もあることを期待
申し上げます。

最後に、本日の高校生議会開催に当たり、お世話
をいただきました学校関係の方々及び県議会議員様、
また県議会関係の方々へ改めて御礼を申し上げます。
ありがとうございました。

以上でございます。

○芝池議会議務局長

最後に、井岡正徳奈良県議会議副議長から閉会
のご挨拶を申し上げます。

副議長閉会挨拶

○井岡副議長

第3回奈良県高校生議会の閉会に当たり、一言
ご挨拶を申し上げます。

高校生議員の皆さん、大変お疲れさまでした。
高校生議員の皆さんから今後の奈良県政の運営

に対して有益な質問や提言をいただきました。非常にうれしく思っております。



知事はじめ執行機関の方々におかれましては、若々しい感性とエネルギーをたくさんもらったのではないかと存じます。高校生の皆さんには、きょうの奈良県に対しての思いをいつまでも忘れず、これからも奈良県政に関心を持ち続けていただきたいと思っております。

知事はじめ執行機関の皆さんと我々議員とは立場は異なりますが、高校生の皆さんに奈良県に住み続けたいと思ってもらえるような県政をともに推進したいと思っております。

終わりにになりましたが、本日の開催に当たり、ご協力いただきました参加校の先生方に厚く御礼を申し上げ、閉会の挨拶といたします。ありがとうございました。

○芝池議会事務局長

以上をもちまして奈良県高校生議会を終了いたします。

本日は、ありがとうございました。

===== 閉 会 =====
===== 午後3時43分 =====